

正誤表

2014年8月18日

弊社書籍「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン」（2014年版）2014年6月20日発行 第2版 第1刷（奥付をご確認ください）の内容に一部誤りがございました。

以下のとおり訂正いたします。

該当箇所	誤	正	備考
p.54 上から 19行目	〔フェンタニルの特徴〕 静脈内投与したフェンタニルが最大鎮痛効果に達する時間は約5分とモルヒネや他のオピオイドと比較して <u>速効性</u> がある。	静脈内投与したフェンタニルが最大鎮痛効果に達する時間は約5分とモルヒネや他のオピオイドと比較して <u>即効性</u> がある。	
p.173 下から 6行目	〔臨床疑問 21〕 また、フェンタニル <u>速放性製剤</u> は、定期投与量にかかわらず低用量から開始し、有効な用量まで増量する。	また、フェンタニル <u>粘膜吸収剤</u> は、定期投与量にかかわらず低用量から開始し、有効な用量まで増量する。	本書では「フェンタニル速放性製剤」の用語を使用しない。